

足利市歴史文化基本構想

～ 概要版 ～



歴史
基本構想
文化



平成 23 年 3 月

足利市

1. 歴史文化基本構想とは？

(1) 策定の背景

我が国には、いにしえから受け継がれて来たさまざまな時代や種類の文化財が存在しています。しかし、近年の経済情勢の低迷、過疎化・少子高齢化といった社会構造や価値観の変化などによって、いま、多くの文化財やそれを守ることで伝えられてきた伝統的な知と技が失われつつあります。これまで、文化財保護法にもとづく指定文化財・登録文化財制度は、文化財の保存と活用において一定の成果を収めてきましたが、多くの市民にとっては身近に感じにくい一面もあり、個々の文化財の保存や活用の手法だけでは限界が生じてきている状況にあります。文化財を取り巻くこうした状況の変化から、これからの文化財の保存活用について新たな方策を講じることが急務となっています。

(2) 歴史文化基本構想のねらい

文化財とは、それぞれが単独・偶然に存在しているのではなく、自然環境のうえに、先人たちの知恵、生活習慣、信仰や美意識などが長い時間をかけて蓄積し、かたちになったもので、文化財どうしも有機的なつながりを持っています。

これらの文化財を社会全体で継承し、地域のアイデンティティの核としてまちづくりを行うためには、

- ・ 文化財を単体ではなく、関連する文化財や周辺環境と一体のものとしてとらえる
- ・ 身近な文化財の「価値」を明らかにして、その「価値」を守りながら魅力的で分かりやすく伝える

といったことが必要といえます。そして、

「地域の文化財をその周辺環境も含め総合的に保存活用していく」

ための基本構想として策定したのが、この「**足利市歴史文化基本構想**」です。

(3) 対象とする文化財

足利市歴史文化基本構想では、指定・登録を受けた文化財だけでなく、身近にありながらもこれまで気付かれていなかった文化財なども含めた**すべての文化財**を対象とし、その**総合的な把握**を目指すとともに、これらの**文化財を総合的に保存・活用していくための考え方・方針等**を定めています。

(4) 策定までのプロセス

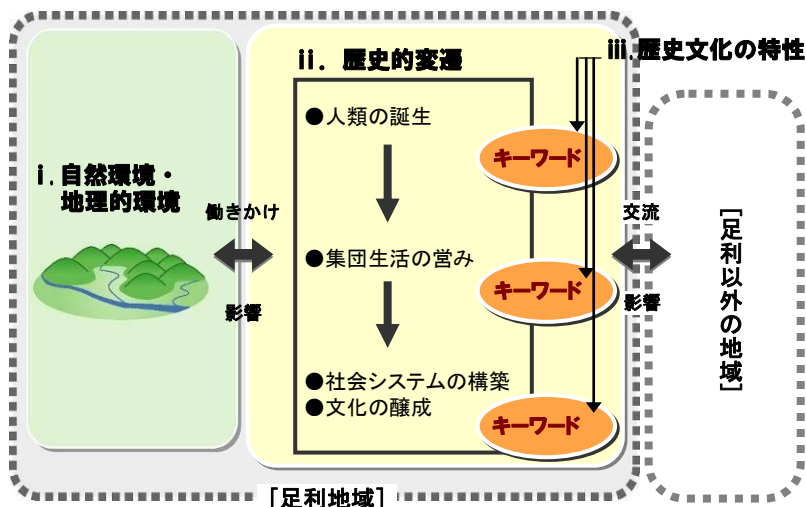
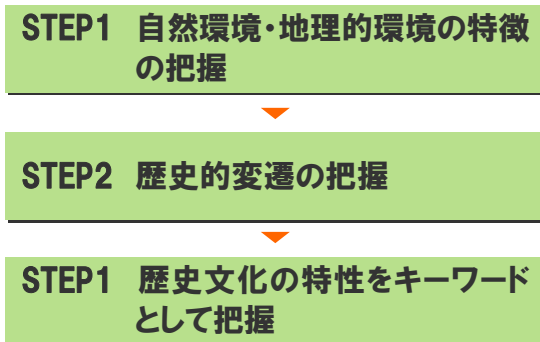
足利市歴史文化基本構想では、文化財調査を地元団体・大学等の協力のもとに行い、基本構想の策定作業を学識者・地元関係者・行政関係者等で構成する「**足利市歴史文化基本構想等策定委員会**」及び**ワーキンググループ**において行いました。また、**市民ワークショップ**、**シンポジウム**や**パブリック・コメント**を実施し、その結果についても反映しました。



2. 足利の歴史文化の特性と関連文化財群

(1) 足利の歴史文化の特性を把握する

以下のプロセスによって、足利の歴史文化の特性を分析し、キーワードとして把握しました。



(2) 足利の歴史文化の特性を象徴する10のキーワード

足利の歴史文化の特性を整理し、その歴史文化の特性を象徴する10のキーワードを抽出しました。

<足利の歴史文化の特性>

i. 足利の風土を形づくる自然・地勢

北に広がる複雑で起伏に富んだ山並み、山陵部に囲まれた平野・湿潤な平野、その間を流れる渡良瀬川が織りなす自然環境のめくみのもとに、人々は定住をはじめ、自然との対話のもと生活を営んでいきました。

ii. 街道・舟運の交通の要衝

畿内と東北、関東と東北を結び交通の要衝地であったため、足利には古代より街道がつくられました。また、近世には渡良瀬川を利用した舟運が活発化する等、他地域との交流が盛んに行われていました。

iii. 中世の足利

中世における足利は、この地に誕生した武家足利氏及びその後の長尾氏の統治により、政治、教育、信仰、芸術等の面において様々な文化が持ち込まれ、現代にまで繋がる街の基盤をつくりあげました。

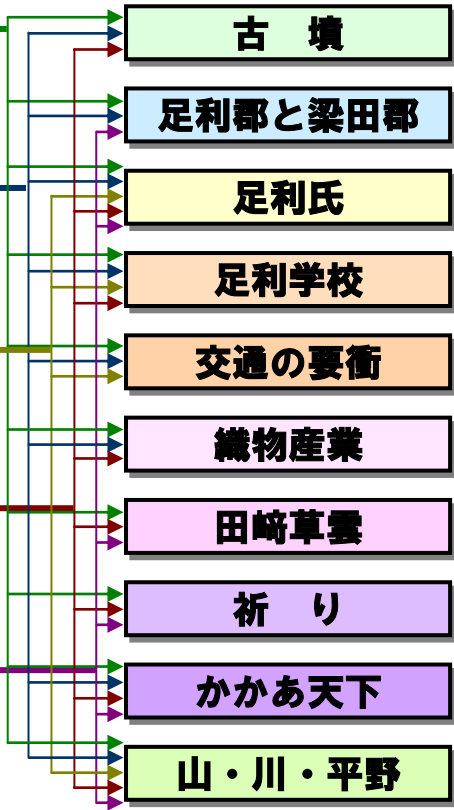
iv. 街の繁栄を導いた織物産業

古代において、朝廷への献上品として足利の特産品でもあったとされる織物は、近世後半～近代にかけて産業として飛躍的な発展を遂げ、足利の街の繁栄をもたらしました。また産業の発展を背景として、芸術文化も花開きました。

v. 継承される祈りの形

足利には、古代から中世にかけて隆盛した山岳信仰や仏教に関連する信仰、また絵馬等に代表される民間の人々による信仰等、様々な形の祈りの多くが、現代に至るまで継承されています。

<キーワード>



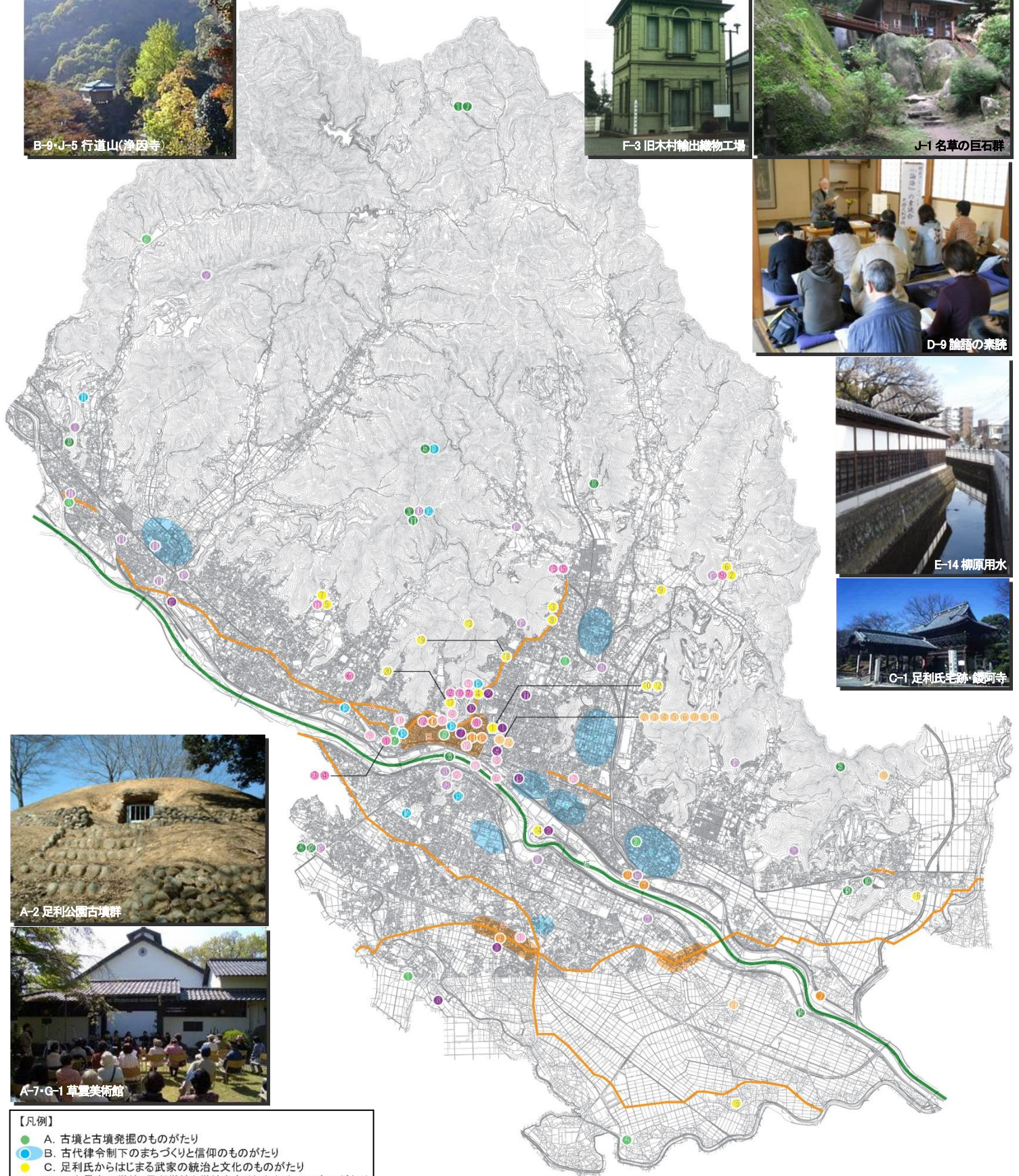
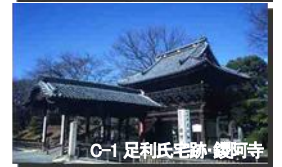
(3) 「関連文化財群」の設定

「関連文化財群」とは、地域に存在する様々な文化財を、特定のテーマやストーリーのもとで関連性を有する一体のものとして捉え、魅力や価値を分かりやすく示したものです。これまで単体で語られがちであった文化財の価値だけでなく、複数の文化財によって明らかになる群としての価値を見つめなおそうという試みです。

(4)これが足利の「関連文化財群」!

歴史文化の特性把握により導き出されたキーワードをテーマとする、10の関連文化財群を設定しました。

関連文化財群のストーリー	構成する主な文化財	関連する人物
キーワード:『古墳』 A. 古墳と古墳発掘のものがたり	A-1 藤本観音山古墳、A-2 足利公園古墳群、A-3 口明塚古墳、A-4 小曾根浅間山古墳 A-5 葉鹿熊野古墳出土人物埴輪、A-6 足利公園古墳出土品 A-7 白石山房(田崎草雲旧宅)、A-8 木村半兵衛宅跡、A-9 相州楼	坪井正五郎、渡邊洪基、峯岸政逸、木村半兵衛、田崎草雲、相場朋厚、丸山瓦全、高橋健自、後藤守一、森貞成、近藤義郎、橋本勇
キーワード:『足利郡と梁田郡』 B. 古代律令制下のまちづくりと信仰のものがたり	B-1 国府野遺跡、B-2 中里阿弥陀前遺跡 B-3 田中・朝倉条里跡、B-4 助戸・大月条里跡、B-5 利保条里跡 B-6 助戸・勸農遺跡、B-7 宇津木遺跡、B-8 常見遺跡 B-9 行道山浄因寺、B-10 大岩毘沙門天、B-11 鶏足寺、B-12 徳正寺 B-13 八雲神社(緑町、五十部町、田中町、通5丁目) B-14 八幡宮(八幡町)	行基、定恵、平将門、藤原村雄、源義家、藤原秀郷、明石姫
キーワード:『足利氏』 C. 足利氏からはじまる武家の統治と文化のものがたり	C-1 足利氏宅跡・鏝阿寺 C-2 権崎寺(法界寺)跡、C-3 吉祥寺、C-4 法楽寺、C-5 智光寺跡 C-6 権崎八幡宮、C-7 平石八幡宮、C-8 江川八幡宮 C-9 光得寺五輪塔、C-10 足利歴代将軍坐像、C-11 足利義氏墓所 C-12 鏝阿寺鐘楼 C-13 足利城跡、C-14 岩井山城跡、C-15 居館跡、C-16 多田木岩跡 C-17 長林寺、C-18 心通院 C-19 長尾政長像、C-20 長尾景長・憲長・政長像	源義家、源義国、源義康、足利忠綱、足利義兼・義氏・泰氏・頼氏・家時・貞氏・尊氏、北条時子、南宗継、高師直、長尾景人・景長・憲長・政長、快元
キーワード:『足利学校』 D. 日本最古の学校・足利学校と学校を守り伝えた人々のものがたり	D-1 足利学校跡(聖廟、三門、遺跡図書館含む) D-2 宋刊本文選、D-3 宋版禮記正義 D-4 堀川国広足利学校打の短刀、D-5 孔子坐像、D-6 小野堂坐像 D-7 釈奠(せきてん)、D-8 曝書(ばくしょ)、D-9 論語の素読 D-10 雲龍寺人見家墓地、D-11 本源寺、D-12 善徳寺	小野堂、足利義兼、上杉憲実、快元、九華、三要、寒松、長尾景人、乃々川・北・人見竹洞、川上広樹、田崎草雲、相場朋厚、丸山瓦全、白沢保美
キーワード:『交通の要衝』 E. 近世足利の交流と発展のものがたり	E-1 日光例幣使道、E-2 桐生街道、E-3 三間道路 E-4 旧八木宿、E-5 旧梁田宿 E-6 猿田河岸跡、E-7 奥戸河岸跡 E-8 木造五百羅漢像附羅漢堂、E-9 八木節、E-10 物外軒 E-11 足利藩陣屋跡、E-12 足利藩陣屋門 E-13 路地のあるまち E-14 三栗谷用水、E-15 柳原用水	戸田忠利、岡上次郎兵衛景能、長四郎三、柳田市郎衛門、堀込源太、山田音羽子
キーワード:『織物産業』 F. 織物産業の隆盛と近代化するまちのものがたり	F-1 足利織物株式会社(現 トセ)、F-2 足利模範然糸工場(現 アサヒスチール)、F-3 旧木村輸出織物工場 F-4 織姫神社 F-5 まゆ玉市、F-6 足利の花火、F-7 えびす講 F-8 足利銘仙 F-9 今福浄水場、F-10 水道山記念館、F-11 中橋、F-12 友愛会館	木村半兵衛、木村浅七、金井繁之丞、川島長十郎、荻野篤太郎、近藤徳太郎、原田定助、原田政七、秋間為八、田島藤兵衛、岡嶋忠助、岩本良助、殿岡利助、富永金吉、前橋真八郎
キーワード:『田崎草雲』 G. 田崎草雲を生み出した足利の芸術文化のものがたり	G-1 白石山房(草雲美術館・田崎草雲旧宅)、G-2 田崎草雲墓所 G-3 絹本著色蓬萊仙宮図、G-4 絹本墨画富嶽図 G-5 厳華園、G-6 浄林寺離れ、G-7 法楽寺、G-8 高福寺 G-9 権崎寺(法界寺)庭園跡、G-10 法楽寺庭園跡、G-11 智光寺庭園跡 G-12 物外軒庭園・茶室、G-13 厳華園庭園	長尾景人、相場古雲、奥河内清香、岡田東塙、渡辺華山、木村凍雲、古川竹雲、宗長、小室翠雲、長谷川沼田居川上広樹、牧島如鳩、川島理一郎、岡崎清一郎、相田みつを
キーワード:『祈り』 H. 足利の庶民による祈りのものがたり	H-1 小俣板碑、H-2 竜雲寺の五輪塔 H-3 長谷川角行修行の場、H-4 浅間神社胎内洞穴 H-5 かな地蔵尊、H-6 耳だれ地蔵 H-7 石尊山の梵天祭り、H-8 浅間神社のベタンコ祭り、H-9 御厨神社の御田植・御筒粥、H-10 大岩山の悪口祭 H-11 山車(小俣町、葉鹿上町、葉鹿仲町、葉鹿下町) H-12 神楽、大絵馬、小絵馬、庚申塔	中山太郎
キーワード:『かかあ天下』 I. 足利を支えた女たちのものがたり	I-1 鏝阿寺智願寺殿御霊屋、I-2 伝北条時子姫五輪塔 I-3 女人講、I-4 乳房地蔵、I-5 二十二夜様、I-6 二十三夜様 I-7 足利銘仙 I-8 絵馬(女郎参詣図)、I-9 絵馬(桜下花魁道中図) I-10 実践女学校、I-11 足利女子高、I-12 足利西高、I-13 上岡学園	北条時子、山下りん、上岡た津、明石姫、妙印尼、山田音羽子
キーワード:『山・川・平野』 J. 自然と共に歩む人々の営みのものがたり	J-1 名草の巨石群、J-2 大岩山、J-3 大小山、J-4 弘法の池 J-5 行道山(浄因寺)、J-6 渡良瀬川と渡良瀬橋 J-7 花崗岩の石切り場跡、J-8 ころみ学園跡 J-9 ミハツツ 自生地、J-10 足利のツツ、J-11 最勝寺暖地性植物自生地、J-12 二木ツツ 自生地、J-13 迫間湿地 J-14 田中正造墓地、J-15 渡良瀬川	田中正造、原田定助、木村浅七、早川忠吾、長祐之、室田忠七、亀田佐平、岡村勇



- 【凡例】
- A. 古墳と古墳発掘のものがたり
 - B. 古代律令制下のまちづくりと信仰のものがたり
 - C. 足利氏からはじまる武家の統治と文化のものがたり
 - D. 日本最古の学校・足利学校と学校を守り伝えた人々のものがたり
 - E. 近世足利の交流と発展のものがたり
 - F. 織物産業の隆盛と近代化するまちのものがたり
 - G. 田崎草堂を生み出した足利の芸術文化のものがたり
 - H. 足利の庶民による祈りのものがたり
 - I. 足利を支えた女たちのものがたり
 - J. 自然と共に歩む人々のものがたり

※左の表及び図に掲載している文化財はごく一部です。詳細は「足利市歴史文化基本構想」の本編をご覧ください。

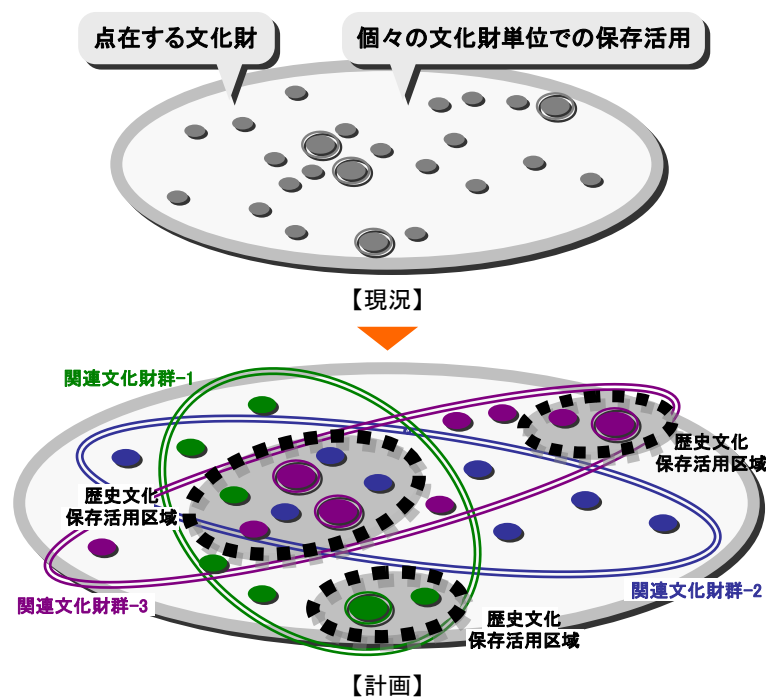


図：文化財の分布

3. 文化財の保存と活用のすすめ方

(1) 保存活用の基本的な考え方

文化財の保存活用の現状と課題を踏まえ、足利市における文化財の保存活用に関する4つの基本的な考え方を設定しました。



図：足利市における文化財の保存活用の基本的な考え方(概念図)

<基本的な考え方>

ア. 足利市におけるすべての文化財の保存活用

- 調査・研究の実施、データベースの構築
- 足利市独自の「文化財認定制度(仮称)」をつくる →(2)を参照
- 文化財を活用した学校教育・生涯学習
- 文化財の一般公開の推進

<基本的な考え方>

イ. 関連文化財群としての保存活用

- 「関連文化財群」の価値を保存し活用する →(3)を参照

<基本的な考え方>

ウ. 文化財が集積する地域における保存活用

- 「歴史文化保存活用区域」を設定し、文化財の保存活用でまちづくりをする →(4)を参照

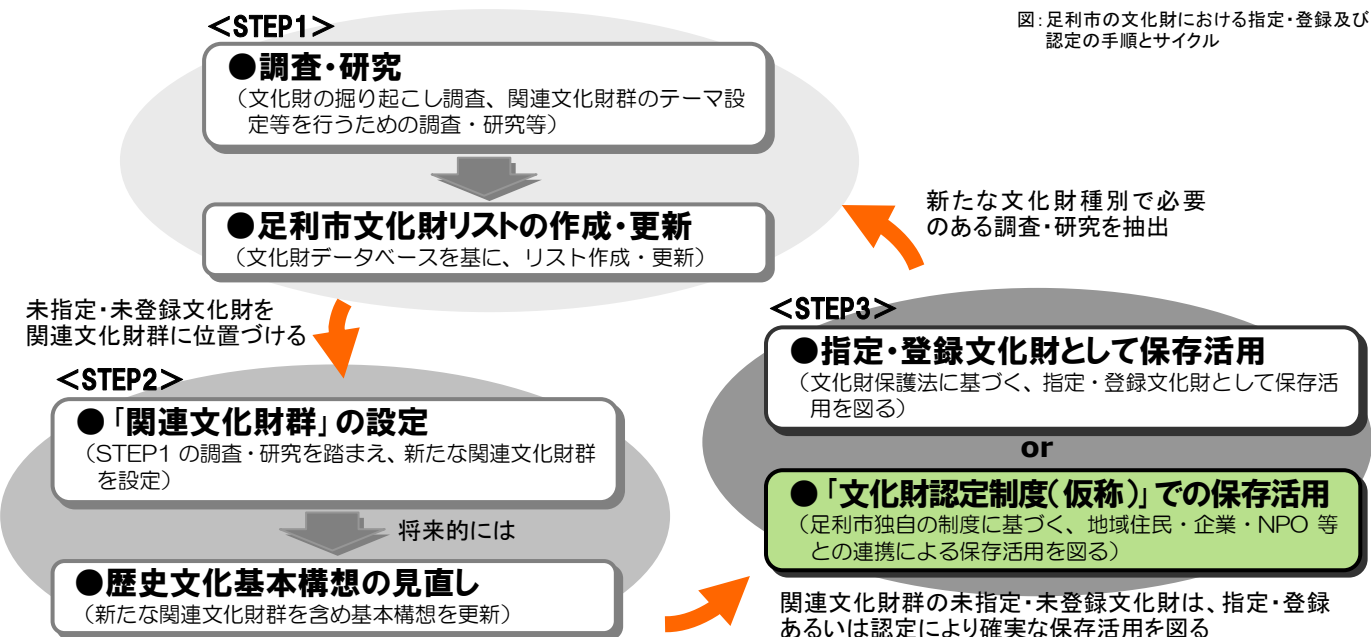
<基本的な考え方>

エ. 保存活用のための役割分担と仕組みづくり

- 保存活用をサポートする体制と仕組みをつくる →(5)を参照

(2) 足利市独自の文化財認定制度をつくる

すべての文化財の保存活用を行うためには、未指定・未登録の文化財の保存活用をいかにして行うかが大きなカギとなります。そこで、未指定・未登録の文化財も含め、足利の歴史文化を物語るすべての文化財について、関連文化財群の中で位置付け、各文化財の持つ価値を明らかにするとともに、足利市独自の「文化財認定制度(仮称)」を新設し認定を行うことで、広く所有者や市民、来訪者等への周知や理解を促進し、文化財の確実な保存と効果的な活用を行います。



図：足利市の文化財における指定・登録及び認定の手順とサイクル

(3)「関連文化財群」の価値を保存し活用する

それぞれの関連文化財群のストーリーと、それを伝える上で必要不可欠な文化財を確実に保存活用するために、以下の取組みを推進します。

i. 関連文化財群のストーリーと文化財の保存

- 指定・登録及び認定制度による確実な保護措置
- 文化財の修理・修復 維持管理 伝承・担い手の育成等
- 調査研究（新たな文化財の発掘など）

ii. 関連文化財群のストーリーと文化財の普及・周知

- 関連文化財群を活かした学校教育・生涯学習の充実
- 関連文化財群を構成する文化財の公開
- ネットワークルート等の設定

(4)「歴史文化保存活用区域」を設定し、文化財の保存活用でまちづくりをする

5つの「歴史文化保存活用区域」（うち3つは「歴史文化保存活用重点区域」）をモデル地区として設定し、保存活用は以下のような取組みを推進します。

i. 文化財とその周辺を含む環境の質の向上

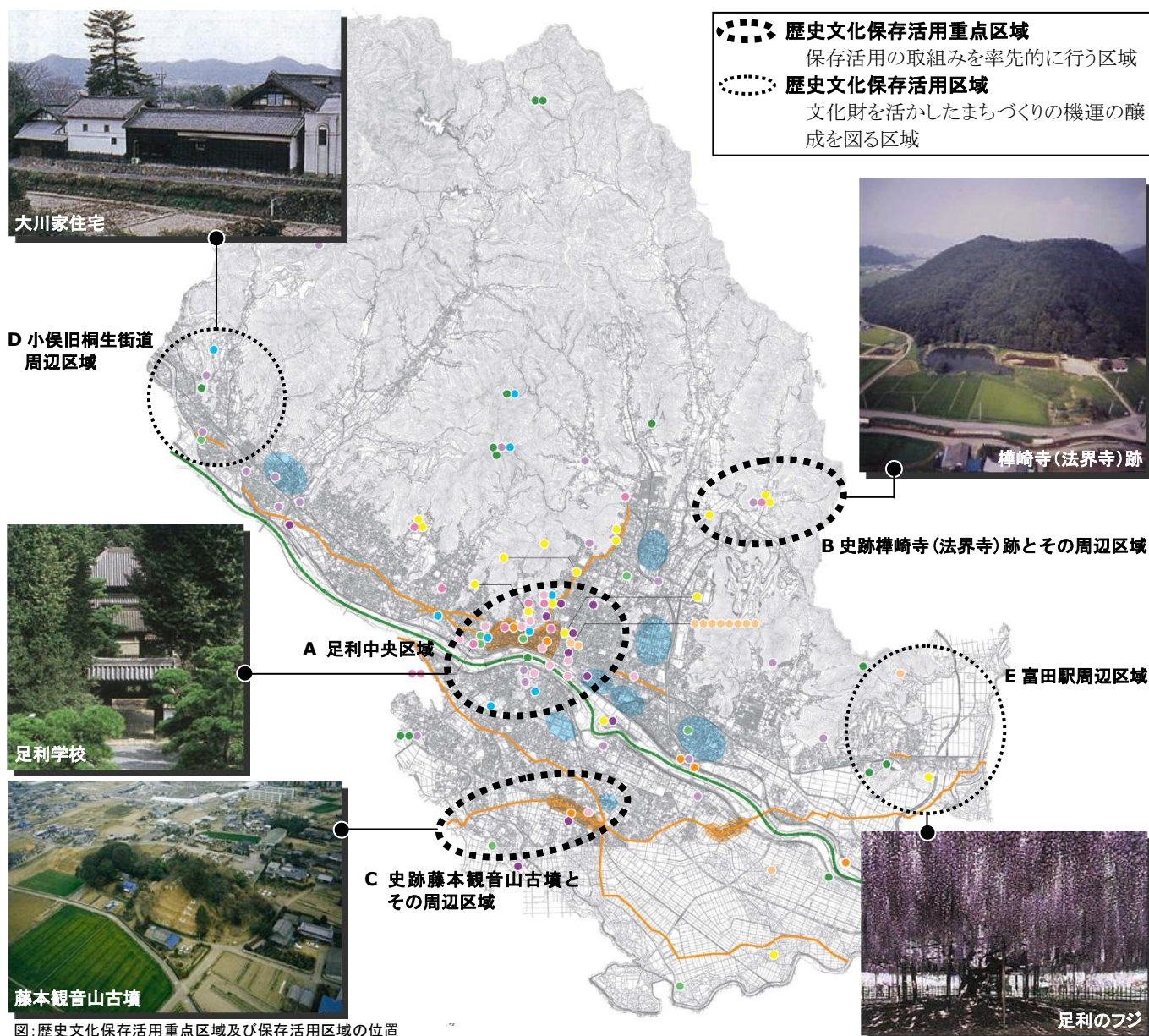
- 文化財の修理・修復
- 歴史文化が薫る環境として不適格な要素・状況の改善
- 区域指定等による法的保護措置

ii. 保存活用のために必要な施設等の整備

- 文化財の収蔵・展示及び保存活用のための様々な活動拠点となる施設の整備
- 文化財の公開と連動した環境整備、施設整備

iii. 利便性の高いサービスの充実

- 情報提供、案内、交通等に係るサービスの充実



図：歴史文化保存活用重点区域及び保存活用区域の位置

(5)保存活用をサポートする体制と仕組みをつくる

保存活用を推進するための人・組織等の体制や仕組みの整備を行います。

i. 「足利市歴史文化基本構想推進委員会(仮称)」の設置

市民、専門家、行政等が相互に連携しながら本構想を推進するための「**足利市歴史文化基本構想推進委員会(仮称)**」を設置し、足利市全体の文化財の保存活用について検討を行い、共通理解を図ります。また、今後の保存活用の熟度にあわせ、関連文化財群ごと、地域ごとの分科会等の設置を目指します。

ii. 「文化財関係団体連絡協議会(仮称)」の設立

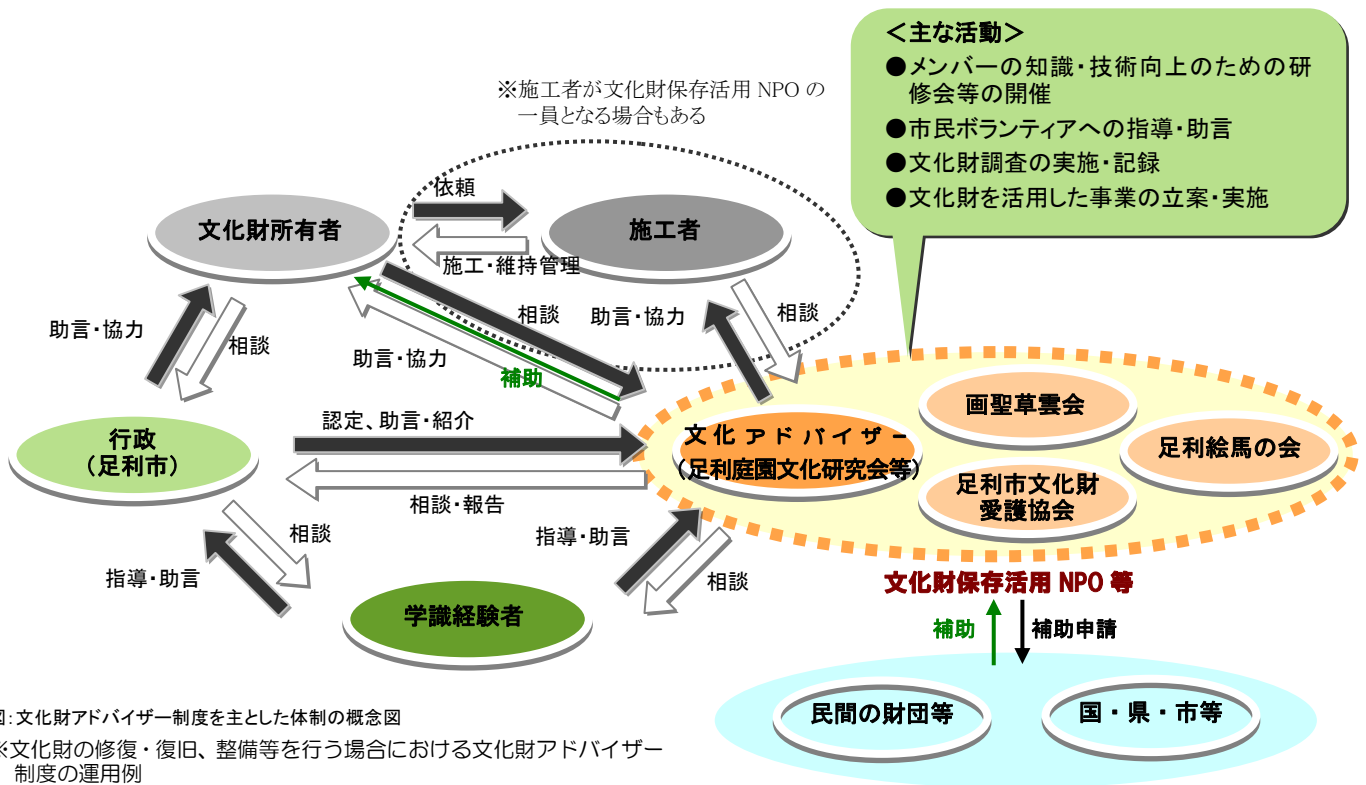
これまで個々に活動していた文化財関係団体が情報交換し、文化財の保存活用のために効果的な活動ができるよう、定期的に会合をもつとともに、各団体が活動するための拠点の整備を目指します。

iii. 「文化財アドバイザー制度」を主とした体制の構築

文化財調査等に携わった市民が蓄積した専門的知識を、積極的に文化財の保存活用の取組みへと反映させる仕組みとして、「**文化財アドバイザー制度**」を主とした体制の構築を目指します。(→下図参照)

iv. 補助・支援制度の積極的活用とそのための仕組みづくり

未指定・未登録の文化財の保存活用を推進するために、国・県・民間等が定めている各種の補助・支援制度の積極的な活用と、そうした補助・支援制度を受け入れることができる仕組みとして、NPO 団体等の設立による新たな組織づくりを目指します。



◆文化財保護法では、文化財を6種類（有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物、文化的景観、伝統的建造物群）に分類しています。文化財という用語を用いる場合、国や地方公共団体により指定等を受け保護の措置が図られているものを指すことが多いですが、当該調査会報告書においては、歴史上、・芸術上等の価値が高い、あるいは人々の生活の理解のために必要なすべての文化的所産を指します。

足利市歴史文化基本構想 ～概要版～

平成 23 年 3 月

編集・発行 足利市（足利市教育委員会事務局文化課）
〒326-8601 足利市本城 3 丁目 2145 TEL : 0284-20-2230 FAX : 0284-21-1005

* 足利市歴史文化基本構想及びこの概要版の内容について、お問い合わせ等がある場合には、上記窓口までご連絡ください。